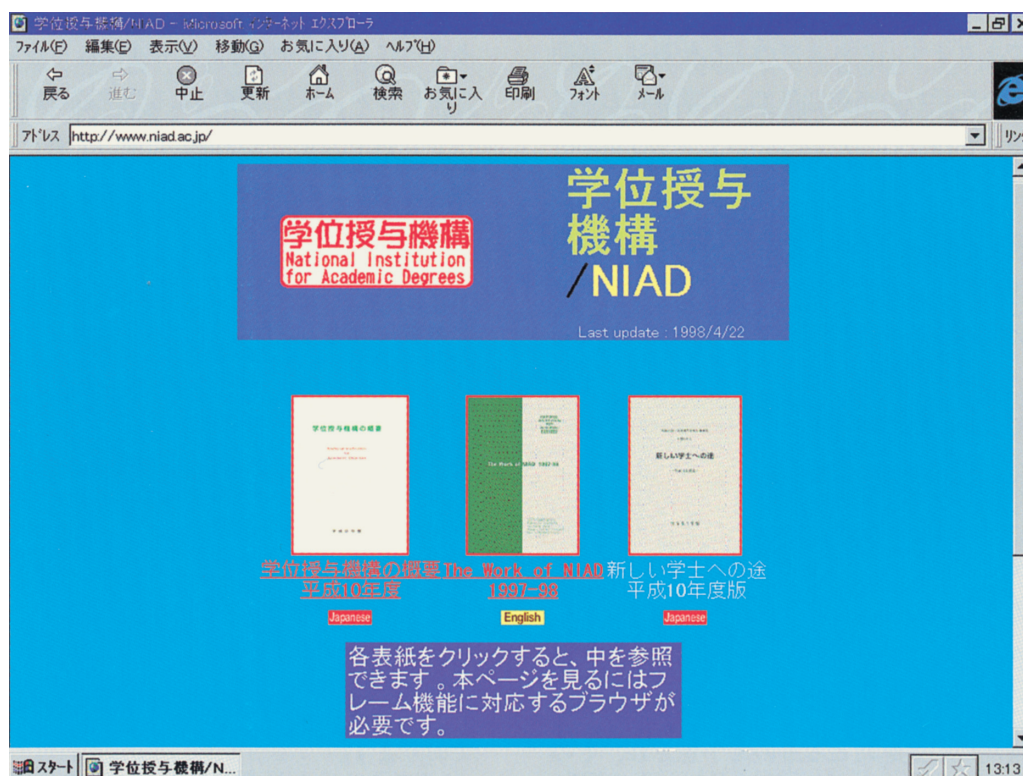


学位授与機構ニュース

National Institution for Academic Degrees

第 14 号

平成 10 年 5 月発行



★平成 10 年 4 月から情報提供を始めた、学位授与機構のホームページ (<http://www.niad.ac.jp/>)

目 次

◆機構長のあいさつ

- 新機構長のあいさつ 2
- 前機構長のあいさつ 3

◆学位の申請・授与等の状況

- 平成 9 年度 10 月期の学士の学位授与状況 4
- 認定課程修了者の博士の学位授与状況 4
- 認定課程修了者の学士の学位授与状況 5
- 短期大学及び高等専門学校専攻科の
認定状況 5

◆機構の窓

- 会議の開催状況 6
- 委員の交代 7
- 「学位研究」第 7 号発行 7
- 人事異動 8
- 学位授与機構インターネットサービス開始 8

◆学位授与機構教職員名簿 9

◆すずかけ散策

- 名城大学 教授 兼松 顯 10
- 産業技術短期大学長 及川 洪 11

新機構長就任のあいさつ

木 村 孟



このたび、田中郁三先生の後を受けて機構長を拝命致しました。よろしくお願い申し上げます。

皆様、既に御承知のとおり、学位授与機構は、平成3年の大学審議会の答申に基づく学校教育法及び国立学校設置法の改正を受けて、同年7月に設置されたものであります。これまでの主な仕事は、短期大学・高等専門学校の卒業者等で、大学等においてさらに一定の学修を行った者について、学位授与の可否を判定するための修得単位及び学修成果についての審査並びに試験の実施、さらには省庁大学校修了者に対する学士・修士・博士の学位授与の審査及びそれら教育施設の課程認定等であります。第一の категорияで学士の学位を取得された方々は、平成9年度末で3,189人、第二の категорияについては、学士が6,252人、修士が539人、博士が95人となっており、これらを合わせますと、これまで学位授与機構で学位を取得された方々の総数は、10,075人と1万人を越えております。我が国が画一的社会から多様化社会へと変貌の度合いを深めていく中、一項学士と呼ばれる第一の категорияでの学位申請者は今後とも増加の一途をたどるものと予想され、その意味で学位授与機構の我が国社会における役割の重要性は、さらに増加するものと考えています。

さらに、平成9年度の大学審議会の答申の「(5) 学生の流動性（選択の幅）を高める工夫」の項において、「一定の専門学校卒業者に対して大学等への編入学の途を開いていくようにすること」、「大学等への編入学資格の認定を受けた専門学校の卒業者については、学位授与機構における学士の学位授与の基礎資格についてもあわせて認めていくこと」との答申が出され、これを受けて本年度、文部大臣の定める基準を満たす専門学校の卒業生に対して大学編入学資格を認める旨の法改正手続きが進められてお

ります。機構ではこの課題に取り組んでいくため、早速、調査研究会を発足させたところであります。

この研究会を中心にして鋭意議論を進めて参りますが、学位授与機構としては、既に規定されている基礎資格との整合性をいかに取っていくかが問われることになろうかと考えています。

そのほか、単位累積による学位取得問題も、我が国が対処すべき大きな課題の一つであり、学位授与機構における検討が求められているところであります。

昨平成9年、英国でデアリング卿に率いられた高等教育に関する諮問委員会から膨大な答申が出されました。この報告書が中心に捉えたテーマは生涯教育であります。デアリング卿によると、この答申は、我が国の生涯教育における考え方に大いに触発されたものであるとのこととあります。本格的生涯学習社会の到来に向けて、我が国においても、学位取得方法の多様化がさらに進展していくものと考えられますが、それを実行していく際には、国際社会における整合性の観点を最優先すべきであると考えております。

学位授与機構は、誕生して未だ7年弱という若い機関であります。今後、様々な難局に直面することも予想されますが、教官、職員一体となって懸命の努力を致す所存であります。今後とも、皆様方の御指導、御鞭撻をいただきますよう、衷心よりお願い申しあげ、就任の御挨拶とさせていただきます。

きむら・つとむ 昭和13年生 工学博士

東京工業大学名誉教授、平成10年4月から学位授与機構長

専門：土質力学

学位授与機構を去るに当たって

田 中 郁 三



平成3年7月に学位授与機構が創設されてから6年9カ月が経過し、このたび機構を去ることになりました。その間、多くの方々の御活躍によって機構の事業が順調に推移発展しましたが、私にとっても皆様の御厚情を受け楽しい日々を送ることができましたことを厚く感謝致したいと思います。

昭和62年9月に設置された大学審議会は、臨時教育審議会から引き継いで我が国の高等教育の直面する課題について審議を行い、平成3年2月に学位授与機関の創設について答申を行いました。私はその当時大学審議会の委員でしたが、そんな関係からか機構長として新しくできた学位授与機構の立ち上がりと発展に努力することとなりました。大学審議会の答申として創設された国立機関は、この学位授与機構が唯一のものであり、その意味でも責任の重さを感じざるを得ませんでした。

機構の最初の骨格をつくるのに一緒に仕事をした方々は、教官として黒羽教授、館教授と齋藤教授でした。また、事務局として、窪田管理部長を筆頭として、若い事務官が活躍してくれました。幸い立ち上がりにおいて新しい試みが順調に進んだことは、飯島先生を長とする創設調査委員会がさきに機構の構想を出されていたことと、また一緒に仕事をされた方々の優れた資質に依るものと思います。

いわゆる学位規則第6条第2項の規定に基づく省庁大学校の学位の授与について学士、修士、博士の学位授与の要件をまず定めました。そこで防衛医科大学校医学研究科の修了者10名からの申請があり、全員が論文の審査及び試験に合格し、平成4年3月に博士の学位を受けたわけです。このことは機構にとって、はじめての学位授与であり、極めて重要な出発点でした。

また論文審査の段階で、その分野の専門の先生方が、全国の複数の大学から集まって審査に当たられる方式をとったことも極めて印象的でありました。

もともと機構の創設のひとつの大きい目標として、単位累積加算制度による学位授与の具体案を検討し実現を図っていくことがあったわけです。その最初の段階として短期大学・高等専門学校卒業生等を基礎資格とした学位規則第6条第1項による学位授与制度を考え実行に移しました。これは短大・高専を卒業してからさらに一定の単位を修得して、合計して124単位以上になれば機構に学位授与申請ができることを意味しております。

これには単位を修得する場所と、単位を修得するための学習のあり方があるわけです。

前者については従来のに加えて新しい専攻科がつけられ、機構は多くの専攻科の認定を行いました。これにより新しく開かれた学士への道を、始めに予想していた数をはるかに越す大きいものにしました。

後者については体系的に科目を修得することが大切ですが、体系的のもつ意味はさらに検討が必要と思っております。

機構からの学位授与者の数も一万人の大台を越え、幸いにも機構の事業は順調に推移致しております。後任の機構長として木村孟前東京工業大学長を迎え、今後ますます機構が発展することを心から願っております。

たなか・いくぞう 大正15年生 理学博士

東京工業大学名誉教授、平成3年7月から学位授与機構長

平成10年3月任期満了退任

専門：化学



学位の申請・授与等の状況



○短大・高専卒業者等

1,001人に学士の学位を授与

－平成9年度10月期－

平成9年度10月期に学士の学位授与申請のあった短期大学・高等専門学校卒業者等 1,130人について、関係各専門委員会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査の結果に基づき、平成10年2月3日(火)審査会が開催され、その結果1,001人が合格となり、学士の学位が授与されました。

〈平成9年度10月期申請者及び授与者数〉

専攻分野	専攻の区分	申請者数	授与者数
文学	国語国文学	6人	6人
	英語・英米文学	11	7
	哲学	1	1
	心理学	1	0
	宗教学	19	16
教育学	教育学	36	34
神学	神学	1	0
社会学	社会学	3	2
	社会福祉学	5	5
教養	地域研究	8	7
	科学技術研究	3	0
学芸	地域研究	1	1
社会科学	社会科学	1	0
法学	法学	6	5
経済学	経済学	2	2
商学	商学	4	2
経営学	経営学	7	6
理学	物理学・地学系	1	1
	生物学系	1	1
看護学	看護学	77	57
保健衛生学	検査技術科学	37	36
	臨床工学	1	1
	放射線技術科学	125	119
	理学療法学	15	15
	作業療法学	15	15

専攻分野	専攻の区分	申請者数	授与者数
鍼灸学	鍼灸学	2	2
栄養学	栄養学	88	74
工学	機械工学	122	118
	電気電子工学	118	107
	情報工学	24	24
	応用化学	37	33
	生物工学	3	3
	材料工学	21	20
	土木工学	39	36
	建築学	14	13
芸術工学	芸術工学	23	23
家政学	家政学	11	7
芸術学	音楽	50	50
	美術	188	149
体育学	体育学	3	3
	合 計	1,130	1,001

○16人に博士の学位を授与

－大学院博士課程相当の課程修了者－

平成9年9月に博士の学位授与申請のあった防衛医科大学校医学教育部医学研究科修了者16人について、医学・薬学専門委員会医学部会での論文審査及び試験の結果に基づき、平成10年2月3日(火)開催の審査会で審査の結果、16人全員に博士(医学)の学位の授与が決定され、平成10年2月27日(金)に学位記授与式が行われ、田中機構長より、学位授与者に対しお祝いと温かい激励の言葉が贈られました。

〈博士(医学)の学位授与申請者数及び授与者数〉

認 定 課 程 名	専攻分野	申請者数及び授与者数
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	医 学	16人

○学部相当の課程修了者

926人に学士の学位を授与

大学の学部に対応する教育を行う課程として認定された課程の平成10年3月修了者から学士の学位授与の申請があり、平成10年3月12日（木）開催の審査会での審査の結果、926人に学士の学位が授与されました。

＜認定課程ごとの学士の学位授与申請者数

及び授与者数＞

認 定 課 程 名	専攻分野	申請者数及び授与者数
防衛大学校本科	理 学	27人
	工 学	309
	社会科学	81
	計	417
防衛医科大学校 医学教育部医学科	医 学	66
水産大学校本科	水 産 学	168
海上保安大学校本科	海上保安	45
気象大学校大学部	理 学	13
職業能力開発大学校 長期課程	工 学	217
合 計		926人

○新たに27専攻を認定（平成10年度）

平成9年9月に申出のあった短期大学及び高等専門学校校の専攻科の認定について、専攻科の教育課程、教員組織等の審査を付託された各専門委員会の審査の結果が、審査会に報告されました。その報告に基づき、平成10年2月3日（火）開催の審査会における審査の結果、次の21校27専攻を平成10年度から認定することが適当と判断し機構長に報告、機構長はその旨決定し専攻科の設置者等に通知いたしました。

また、平成10年4月1日付けの官報（号外第66号）に公示されました。

1. 短期大学専攻科

	専 攻 科 名	専 攻 名	修業年限	設 置 者	適用時期
1	信州大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	1年	国	平成10年4月1日
2	熊本大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	1年	国	〃
3	東京都立短期大学専攻科	都市生活学専攻	1年	東京都	〃
		健康栄養学専攻	1年		
4	富山県立短期大学部専攻科	生物資源専攻	2年	富山県	〃
		地域環境工学専攻	2年		
5	白梅学園短期大学専攻科	保育専攻	2年	学校法人白梅学園	〃
6	日本赤十字武蔵野短期大学専攻科	地域看護学専攻	1年	学校法人日本赤十字学園	〃
7	宝仙学園短期大学専攻科	造形芸術専攻	2年	学校法人宝仙学園	〃
8	湘北短期大学専攻科	保育専攻	1年	学校法人ソニー学園	〃
9	仁愛女子短期大学専攻科	音楽専攻	2年	学校法人福井仁愛学園	〃
10	日本赤十字愛知短期大学専攻科	地域看護学専攻	1年	学校法人日本赤十字学園	〃
11	京都芸術短期大学専攻科	工芸専攻	2年	学校法人瓜生山学園	〃
12	関西鍼灸短期大学専攻科	鍼灸学専攻	1年	学校法人関西医療学園	〃
13	鳥取女子短期大学専攻科	食物栄養専攻	1年	学校法人藤田学院	〃
14	順正短期大学専攻科	幼児教育専攻	2年	学校法人高梁学園	〃
15	中国短期大学専攻科	音楽専攻	2年	学校法人中国短期大学	〃
16	活水女子短期大学専攻科	食物栄養専攻	2年	学校法人活水学院	〃
17	別府大学短期大学部専攻科	初等教育専攻	2年	学校法人別府大学	〃

2. 高等専門学校専攻科

	専 攻 科 名	専 攻 名	修業年限	設 置 者	適用時期
18	宮城工業高等専門学校専攻科	生産システム工学専攻	2年	国	平成10年4月1日
		建築・情報デザイン学専攻	2年		
19	福井工業高等専門学校専攻科	生産システム工学専攻	2年	国	〃
		環境システム工学専攻	2年		
20	呉工業高等専門学校専攻科	機械電気工学専攻	2年	国	〃
		建設工学専攻	2年		
21	神戸市立工業高等専門学校専攻科	電気電子工学専攻	2年	神戸市	〃
		応用化学専攻	2年		

機 構 の 窓

○会議の開催状況

□評議員会

第15回 平成10年3月11日（水）

・主な議事項目

- (1) 機構長の人事について
- (2) 名誉教授について
- (3) 事業の実施状況について
- (4) 専門学校卒業生に対する学位授与制度に関する調査研究について
- (5) その他

□運営委員会

第23回 平成10年3月3日（火）

・主な議事項目

- (1) 客員教授、客員助教授について
- (2) 名誉教授について
- (3) 審査委員について
- (4) 専門委員について
- (5) 事業の実施状況について
- (6) 専門学校卒業生に対する学位授与制度に関する調査研究について
- (7) 運営委員について
- (8) その他

□審査会

第38回 平成10年2月3日（火）

・主な議事項目

- (1) 学位規則第6条第1項に規定する学士の学位授与の審査について
- (2) 認定課程修了者に係る博士の学位授与の審査について
- (3) 短期大学と高等専門学校の専攻科の認定の可否について
- (4) 教育の実施状況等の審査について（短期大学・高等専門学校の認定専攻科）
- (5) 教育の実施状況等の審査について（各省庁

大学校分）

(6) その他

第39回 平成10年3月12日（木）

・主な議事項目

- (1) 認定課程修了予定者に係る学士の学位授与の審査について
- (2) 認定課程修了者に係る修士の学位授与の申請予定について
- (3) 平成10年度審査スケジュールについて
- (4) その他

□専門委員会

1. 審査会からの付託により次の事項についての審査を11月から1月にかけて実施しました。

- ① 平成9年10月期の短期大学・高等専門学校卒業生等からの学士の学位授与申請
修得単位の審査
学修成果・試験の審査
- ② 認定課程修了者からの博士の学位授与申請
論文審査及び口頭試問
- ③ 短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定の申出
- ④ 短期大学及び高等専門学校の認定専攻科の教育の実施状況等の審査について
教育課程及び教員組織等の審査
- ⑤ 各省庁大学校の教育の実施状況等の審査について
教育課程及び教員組織等の審査

2. 開催した専門委員会・部会

文学・神学専門委員会	
（国語国文学部会）	1回
（英語・英米文学部会）	2回
（独語・独文学部会）	1回
（心理学部会）	1回
（宗教学部会）	2回
教育学専門委員会	2回
社会学専門委員会	
（社会学部会）	1回

(社会福祉学部会)	2 回
教養・学芸専門委員会	2 回
法学・政治学専門委員会	1 回
経済学・商学・経営学専門委員会	1 回
理学専門委員会	
(数学・情報系部会)	1 回
(物理学・地学系部会)	1 回
(生物学系部会)	1 回
医学・薬学専門委員会	
(医学部会)	1 回
看護学・保健衛生学・鍼灸学専門委員会	
(看護学部会)	2 回
(検査技術科学部会)	1 回
(放射線技術科学部会)	2 回
(理学・作業療法学部会)	1 回
(鍼灸学部会)	2 回
家政学・栄養学専門委員会	
(家政学部会)	2 回
(栄養学部会)	2 回
工学・芸術工学専門委員会	
(機械工学部会)	2 回
(電気電子工学部会)	2 回
(情報工学部会)	2 回
(応用化学部会)	2 回
(材料工学部会)	2 回
(土木工学部会)	2 回
(建築学部会)	2 回
(造形工学・芸術工学部会)	2 回
農学専門委員会	1 回
芸術学専門委員会	
(音楽部会)	2 回
(美術部会)	2 回
体育学専門委員会	1 回
商船学・海上保安専門委員会	1 回

□客員教官会

第23回 平成10年3月9日(月)

・主な議事項目

- (1) 事業の実施状況について
- (2) その他

□学習情報企画調査研究会

平成10年2月17日(火)

・主な議事項目

- (1) 大学における学習機会の情報提供について
- (2) その他

○委員の交代

□審査委員

学位授与機構の及川洪教授が辞任されました。

・辞任

平成10年3月31日付

及川 洪 学位授与機構教授

(平成9年4月2日～平成10年3月31日)

○「学位研究」第7号の発行

学位授与機構における調査研究の成果として、平成10年3月に「学位研究」第7号を刊行しました。内容は次のとおり。

○論文：

・日本における薬学教育の変遷と学位問題

兼松 顯／山川 浩司

・米国の衛星通信大学：NTU 清水 康 敬

・わが国における医学博士の社会的分析

—旧学位令(大正9年)下における濫授状況をめぐって— 橋 本 鉦 市

○研究ノート・資料：

・工学の博士学位記—大正・昭和・平成—

齋 藤 安 俊

・ウイスコンシン大学マジソン校の大学院学位の種類及び取得要件について

館 昭

・英国ロンドン大学プログラム (University of London, External Programme) —1858年から未来へ— 児矢野 マ リ

○人事異動

(機構長)

・昇任

平成10年4月1日付

木村 孟 機構長

(東京工業大学教授)

平成10年4月1日～13年3月31日

・退職(任期満了)

平成10年3月31日付

田中 郁三 機構長

(研究教育職員)

・配置換

平成10年4月1日付

支倉 崇晴 審査研究部教授

(東京大学大学院総合文化研究科教授)

・採用

平成10年4月2日付

岩村 秀 審査研究部教授

(前九州大学有機化学基礎研究センター長)

・辞職

平成10年3月31日付

及川 洪 審査研究部教授

・停年退職

平成10年3月31日付

兼松 顯 審査研究部教授

<客員教授>

井上 祥平 東京理科大学教授

平成10年4月1日～11年3月31日

山崎 美貴子 明治学院大学教授

平成10年4月1日～11年3月31日

<客員助教授>

田中 雅文 日本女子大学助教授

平成10年4月1日～11年3月31日

山田 礼子 プール学院大学助教授

平成10年4月1日～11年3月31日

(事務職員)

・転入

平成10年4月1日付

学務課長

松田 栄二

(文部省大臣官房福利課企画係長)

総務課課長補佐

宗片 佐吉

(東京工業大学工学部等専門員)

総務課庶務係主任

伊東 陽子

(文部省高等教育局私学部私学行政課総務係)

総務課会計係

駒村 高宏

(横浜国立大学経営学部会計係)

学務課認定審査係

牧田 夏木

(横浜国立大学工学部学務係)

学務課学修審査係

石橋 和哉

(文部省高等教育局大学課)

学務課学修審査係

市川 裕千

(文部省高等教育局専門教育課技術教育係)

学務課学修審査係

長内 隆

(東京工業大学総合理工学研究科等

大学院総合理工学研究科事務掛)

・転出

平成10年4月1日付

東京学芸大学学生部

後藤 宏平

厚生課長

(学務課長)

東京工業大学研究

協力部研究協力課

野本 准一

課長補佐

(総務課課長補佐)

文部省高等教育局

私学部私学助成課

高瀬 正明

助成第三係長

(総務課庶務係長)

横浜国立大学学生部

高柳 圭悟

教務課教務係長

(学務課認定審査係長)

横浜国立大学教育

須永 幸男

人間科学部用度係

(総務課会計係)

一橋大学庶務部

久保田 隆

庶務課企画調査係

(学務課学務第一係)

文部省高等教育局

小山田 享史

学生課奨学第二係

(学務課学習支援係)

○学位授与機構インターネットサービス開始

学位授与機構では、平成10年4月30日(木)にホームページ(表紙参照)を開設しました。内容は、当機構の刊行物である「学位授与機構の概要(和文及び英文)」と「新しい学士への途」の情報を提供します。[\(http://www.niad.ac.jp/\)](http://www.niad.ac.jp/)

学位授与機構教職員

(平成10年4月2日現在)

機 構 長 木 村 孟

審査研究部

審査研究部長・教授

教 授

教 授

教 授

助 教 授

助 手

齋 藤 安 俊

岩 村 秀

館 昭

支 倉 崇 晴

橋 本 鉦 市

森 利 枝

客 員 教 授

客 員 教 授

客 員 助 教 授

客 員 助 教 授

井 上 祥 平

山 崎 美貴子

田 中 雅 文

山 田 礼 子

管 理 部

管 理 部 長

総 務 課 長

課 長 補 佐

庶 務 係 主 任

鈴 木 洪 一

徳 永 富士夫

宗 片 佐 吉

伊 東 陽 子

内 藤 聡

磯 村 桂 子

松 本 伸 子

田 上 俊 子

企 画 係 長

会 計 係 長

須 田 和 昭

山 口 達 也

大久保 一 博

駒 村 高 宏

白 石 睦 子

学 務 課 長

課 長 補 佐

認 定 審 査 係 長

学 修 審 査 係 長

認 定 課 程 係 長

松 田 栄 二

伊 藤 亘

大 西 真 一

牧 田 夏 木 子

木 本 貴 子

坂 本 行 隆

樋 口 壮 央

石 橋 和 哉

市 川 裕 千

長 内 隆

山 本 作 子

熊 本 洋

原 和 敬

策 散 け か ず す

退官にあたり

兼 松 顯

本年3月31日をもって学位授与機構を停年退官致しました。学位授与機構とは、今から2年半ほど前に当時医学専門委員会主査をしておられました平教授より薬学専攻分野における修得単位の審査基準設定の御依頼を受けましたことがご縁となり、九州大学を停年後、本機構にお世話になりました。

この2年間、私にとりましては、生涯学習の意義を噛みしめながら微力ではございましたが、学位授与機構の進展に貢献することができましたことは、これまで研究・教育に携わってきたものとして大きな喜びであり、また誇りでもあります。また、各種委員会に出席させていただき、研究分野を越えて多くの先生方との出会いがあり、親しく諸先生方と交流の機会が得られましたことも大きな収穫でありました。なお、薬学専攻分野の審査基準が公表されました時に、薬学界や薬業界から不安と反対の意見が出されましたが、その後のPR活動により学位授与機構の業務内容の理解も高まり、関心を寄せられるようになってまいりました。今後とも世間では、生涯学習を通じての学習活動への関心と理解は高まり、ますます多様化していくものと思われ、本機構の意義と存在が一層クローズアップされることと存じます。

また、新しい課題として、大学審議会の答申に基づく専門学校卒業者への大学編入学資格の付与と学位授与基礎資格の付与の制度化や、単位累積加算による学位授与の検討といった学位授与機構において検討すべき課題が山積されてまいりましたが、今後、

このような要請にこたえながら、ますます発展されることを祈念しております。

最後に在任中にお寄せいただきました数々の御指導と御厚誼に対して重ねてお礼申し上げます。

かねまつ・けん 昭和7年生 薬学博士
前学位授与機構審査研究部教授、平成10年4月から名城大学教授
専門：医薬化学、薬品製造化学、有機合成化学

学位授与機構を去るに当たって

及 川 洪

昨年4月2日、2年間を過ごさせていただくつもりで、老新採用者としてこの機構に出頭してから早くも1年がたとうとしています。このたび尼崎市にある産業技術短期大学に就職するために退職させていただくことになりました。

この職場の内側に入って、予想とかなり異なっていたことが二つありました。一つは認定などの対象者、対象校がかなり多いことです。事務担当の方々の懸命な努力で何とか処理できているものの、事務的には早晚パンクするのではないかと心配になります。もう一つは審査を担当される先生の数の多さと、その協力的な姿勢です。機構側の一員として、この方々の尽力によって学位授与機構が機能できるのだと心から感謝いたしております。

これからの新しい問題としては単位累積加算制度や専門学校卒業者に対する学位授与制度などがありますが、その他にもいささか気にかかることがあります。

現行の諸規定は良く整えられておりますが、専門の分類などについては伝統的なものにしがたって作られているため、最近の新しい区分や内容を必ずしも十分に受け止められないのではないかと感じさせる部分があります。その意味で現行の規定についても継続的な検討を続けられることを期待しております。

この4月から、思いがけずまた教育の現場に戻るようになりました。私学・短大と従来とはかなり異なった職場ですから、本当のところは何がどう起こるかに興味津々、悪く言えば心配半分、というところ。まだ専攻科は設置されていませんが、数年の内に学位授与機構に認定のお願いを出すことも十分考えられます。そうなれば、立場は異なっていて

も、またこの機構とご縁がつながることでしょう。

私がこの1年機構に対して十分にその役目を果たしていたかどうかはいささか怪しいのですが、私自身にとっては、これまでと全く違った領域の方々の知遇を得るなど、極めて有意義な1年間であったと感謝しております。この機構を去るに当たって、皆様方に心から御礼申し上げます。

最後になりましたが、学位授与機構のこれからのますますの発展を祈念して、退任の御挨拶とさせていただきます。

おいかわ・ひろし 昭和10年生 工学博士

前学位授与機構審査研究部教授、平成10年4月から産業技術短期大学長

専門：強度材料学

編集後記

◇ 平成10年度最初の機構ニュースである第14号をお届けいたします。

◇ 年度始めの人事異動については、「機構の窓」でお示ししてあります。また、平成10年4月2日現在の教職員を機構ニュースの9ページに掲げてあります。今年度もかなりの数の人々を送り、入れ替わりに新しい人々を迎えましたが、特筆すべきは初めて機構長の交代があったことです。そこで、「巻頭言」として、新旧お二人の機構長に寄稿していただきました。

◇ 「すずかけ散策」には、3月で学位授与機構を退職なされた兼松教授と及川教授のお二人に、退任のあいさつのお言葉をいただきました。

◇ 「機構の窓」の最初に示してありますように、学位授与機構のインターネットホームページが開設されました。ホームページ全体の内容を御覧になった感想などをお寄せいただければ幸いです。

◇ 暑くなったり寒くなったりと天候不順の日が続きますが、窓の外は日一日と変化し、緑が日増しに濃くなっており、盛夏の近きことを感じさせています。

(T. H.)

編 集 学位授与機構広報委員会

〒226-0026 横浜市緑区長津田町
4259番地

電 話 045-922-6441

Fax. 045-923-0258

印 刷 (有) 創 文 社

〒141-0031 東京都品川区西五反田
1-4-1

電 話 03-3491-8321